横浜市立みなと赤十字病院
YOKOHAMA CITY MINATO RED CROSS HOSPITAL
医療連携センターだより No.19

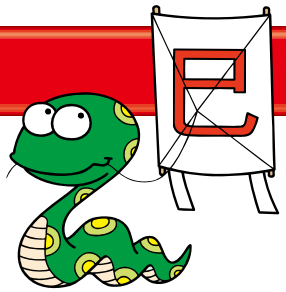
みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 ／ TEL 045-628-6100㈹
http://www.yokohama.jrc.or.jp/
●発行：2013年1月　医療連携センター

Contents

■院長ご挨拶…… 1
■PET/CTのご紹介…… 2
■骨密度測定装置を更新しました …… 2
■インフルエンザ対策の話題 …… 3
■がん診療連携拠点病院における健診センター…… 3
■新任医師のご紹介…… 4
■第4回みなと市民セミナー …… 4
■4区医師会・合同研究会報告 …… 4

2013年のご挨拶



横浜市立みなと赤十字病院
院長　四　宮　謙　一

明けましておめでとうございます。

さて、間もなく高齢化率が25%に達する超高齢社会をむかえ、地域においてより効率的な医療を実現するために、急性期から回復期、慢性期、在宅医療へと、それぞれの医療機関の役割分担が明確になりつつあります。私どもの横浜市立みなと赤十字病院は急性期医療の地域中核病院としての使命を果たしてまいりました。2011年度の救急車受け入れ台数は約12000台を数え、不応需率も4%以下と横浜市の救急体制に大きく貢献し、救命救急センターの使命を果たしていると考えています。

2011年からがんセンターを開設して準備を進めてきた結果、2012年4月に国の地域がん診療連携拠点病院に指定されました。時を同じくして肝胆膵外科専門医、乳腺外科専門医が診療を開始し、7月には外来化学療法センター24床の開設、また2013年1月からPET-CTを開始いたします。健診センターでは消化器・前立腺、肺・女性のがんなどの早期発見に努めています。今後もがんの早期診断から正確な確定診断、そして最先端治療から緩和ケアまで、患者中心の総合的ながん診療に貢献できるように努めてまいります。

周産期医療におきましても、2012年4月より産婦人科が6名、小児科が11名の体制となり、また出産・新生児集中治療などの設備、機器の充実に努めた結果、2012年7月に地域周産期母子医療センターの指定を受けました。地域からの多くのお産（年間1000件目標）を受け入れることを目指し、それに伴う30週・1250gまでの未熟児診療にも既に対応しています。

さて、当院とともに地域医療を担っていただいている登録医師は毎年増加しており、現在560施設を超えています。MRI、CTも平日の17時以降の夕方、および土曜日午前中に紹介患者を受けつけており、地域の医療資源を有効に使用していきたいと考えています。またみなとスキルラボを11月に開設し、救命救急、内視鏡、腹腔鏡などのトレーニングを可能といたしました。技術認定医・専門医からの指導と自らの修練により、先進的で高度な医療技術を若い医師に獲得してもらいたいと考えて計画いたしました。もちろん外部の先生方のトレーニングも受け付ける予定ですので、是非ともご利用ください。

質の高い医療というのは単に医療レベルが高いというだけでなく、その医療に思いやりの心が伴わなければならないと考えます。横浜市立みなと赤十字病院は370万の横浜市民から信頼されるような博愛の精神と質の高い医療を推進していきますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、心よりお願いします。

PET/CTのご紹介

放射線科　荻　　成　行

2013年1月より当院に導入されたPET/CT検査についてご紹介いたします。PET検査はがんの診断から治療効果判定、再発診断まで幅広い適応があり、かつ有効性も確認されており、現在ではがん診療においてかかせない画像診断法のひとつです。副作用もなく安全で侵襲性の少ない検査です。

本邦においては2002年に保険適用となり、現在では早期胃がんを除く悪性腫瘍(他の検査、画像診断により病期診断、転移･再発の診断が確定できない患者)に保険適用となっています。また、PETでは解剖学的情報に乏しいため、形態画像との融合という構想が持たれるようになり、PET画像とCT画像の情報を1回の検査で得られるPET/CT装置が開発され、本邦では2003年12月に薬事承認されて診断能がより高まりました。　以後、全国でPET/CT装置の導入が相次ぎ2011年の集計では本邦ではPET単独の装置と合わせ227台のPET装置(PET/CTは174台)が稼働しています。当院のPET/CT装置はGE社製のDiscovery PET/CT 610 Q.Suiteで呼吸同期収集時間の短縮や超低線量CTによる被ばく低減などが特徴です。検査は6時間程度の絶食のあとまずPET製剤の注射、CT撮影およびPET撮影の順に行います。全部で2時間程度で終了します。得られたデータはCTとPETの融合画像として再構成されPET認定医が読影を行います。

PET/CT検査で使用される薬剤は^{18}F-FDG(fluorodeoxyglucose)というブドウ糖類似の化合物です。かつてはサイクロトロンと呼ばれる^{18}Fの発生装置やFDGとの合成装置などが必要でしたが、2005年より^{18}F-FDGの商業的配送供給システムが整備されたことによりサイクロトロンのない施設でもPET検査を行うことができるようになりました。悪性腫瘍では糖代謝が亢進することが知られており、FDGがん細胞に集積することでがんの診断を行っています。FDGの腫瘍への集積は一般にその増殖速度や悪性度と相関があるとされています。ただし、悪性腫瘍以外でも炎症や良性腫瘍への集積が認められることがありますが、その場合は臨床所見やその他の画像診断で鑑別を行っています。悪性腫瘍のなかでも糖代謝の低い腫瘍(高分化型肺腺癌など)があり病巣への集積が過小評価されることもあります。

PET/CT検査では種々のがん種についての有用性が確認されています。適用疾患では肺がん、悪性リンパ腫、頭頸部がん、大腸がん、乳がんの順に多く、肺がんでは、感度93%、特異度73%、正診率90%と非常に高い成績が報告されています。しかし、1cm以下の小さい病変では偽陰性のこともありますし、良性病変での偽陽性例もありますので他の検査と合わせての診断が重要です。

PETを用いたがん検診についてですが、PET/CT装置を有する全国各地の診療機関で広く行われおり、いくつかのPETによるがん検診施設から報告されているがん発見率は1%前後です。発見率の高いがんとして、甲状腺がん、大腸がん、肺がん、乳がんなどがあります。当院の健診センターでもPETを健診に組み入れた新たな健診コースの新設を検討しております。

PET/CT検査の有用性を十分に生かし患者さまのがん診断および治療に役立てて行きたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

PET/CT装置　　Discovery PET/CT 610 Q.Suite

石神事務員　飯田技師　猪狩技師　大谷部長　荻副部長

放射線科スタッフ

骨密度測定装置を更新しました

このたび、骨密度装置　Discovery(HOLOGIC社製)を導入しました。　この装置はDXA法(二重エネルギーX線吸収法)による腰椎測定を採用しており、これは原発性骨粗鬆症の診断基準に則した方法です。

医療機器の共同利用としてぜひご利用ください。

詳しくは、当院ホームページまたは、地域医療連携室までお問合せください。

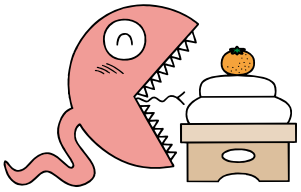
インフルエンザ対策の話題

感染対策チーム / 膠原病リウマチ内科　萩　山　裕　之

去る10月17日、第120回みなとセミナー　感染講演会「臨床医のためのインフルエンザ診療～抗インフルエンザ薬を中心に～（愛知医科大学三鴨廣繁先生）」を開催いたしました。感染症の分野でご高名な三鴨先生の講演とあって、雨にもかかわらず多数の皆様にご出席頂き、盛会のうちに終えることができました。抗原シフトや抗原ドリフトといったウイルス学的な知識から、疫学、経験症例の経過、抗インフルエンザ薬を含めた治療方法など多彩な内容をわかりやすく解説して頂きました。中でも、新型インフルエンザ等対策特別措置法（特措法）について、検疫や運航制限、プレパンデミックワクチンなど問題と考える点を熱く語られていたのは印象的でした。

特措法は平成24年5月11日に公布され、1年以内の施行に向け準備が進められています。医療関係者に対する医療の実施の要請（第31条）、それに伴って生じた損害の補償（第63条）などについても書かれていますので、是非一度目を通しておかれることをお勧めします（と三鴨先生がおっしゃっていました）。

さて、横浜市が平成22年2月から横浜市医師会や市内の中核病院等と“横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者連絡協議会”を立ち上げ、次のインフルエンザパンデミックに備えていることはご承知のことと思います。そこで議論され締結間近の“新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設等に関する協定”では、同外来開設時、場合によっては病院外の医療従事者の方々にご協力を仰ぐことも記載されております。新型インフルエンザパンデミックは起きて欲しくありませんが、最近米国でブタインフルエンザH3N2が300名以上に感染したというニュースもありました。もしもの時には、これまで同様先生方のご支援をお願い致します。



がん診療連携拠点病院における健診センター

～がん検診受診率向上のために～

健診センター　伊藤　美奈子

日本における死亡原因の最高率を占める「がんなどの悪性腫瘍」は治療の進歩により5年生存率は確実に改善してきています。それをさらに向上させるには早期発見が重要であることは言うまでもありません。

横浜市立みなと赤十字病院は、2012年4月に国の「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。健診センターは当院の「がんセンター」の大切な役割を担っており、がん検診の受診率向上とがんの早期発見に尽力しています。

健診メニューとしては、胃がん・大腸がん・前立腺がん検診、肺がんドック・レディースドックなどをそろえて、がんの早期発見に努めています。もし、がんが発見されれば、病院併設型健診センターの特徴を生かして、専門的な知識・技能を有する医師や、その他の専門医療スタッフが参加するキャンサーボードにより、正確な診断と病気の進行度・年齢・健康状態などを考慮した最適な治療が選択されます。またPET-CTが2013年1月に導入されるのに伴い、低侵襲でかつ効率的に悪性腫瘍を発見できる「PET-CT検診」を開始する予定です。

超高齢社会に突入した今、限りある医療資源を有効に運用するためにも今後ますます予防医学が重要な役割を担うことになります。健診センターの使命は、地域住民の皆様の心と体を健やかに保ち、仕事に専念でき、また家族や友人と笑顔で楽しい時間を長く共有できるような、満足度の高い人生作りを支援することです。それを実現するためには健診業務だけではなく、疾病予防の重要性についても公開講座などを通して啓蒙に力を入れたいと思っています。当院登録医である先生方と一緒に活動することにより、一人でも多くの方にがん検診・健康診断・人間ドックを受けていただきたいと考えています。大事な患者さんやご家族が健診を必要とされる際には、横浜市立みなと赤十字病院の健診センターをご紹介いただければ幸いです。

長谷川看護師　松本看護師　伊藤健診センター部長　野口課長　熊谷看護師
「私たちが健康管理のサポートをさせていただきます」

新　任　医　師　の　ご　紹　介

新しく就任した医師をご紹介させていただきます。今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

＊＊＊ 質問項目 ＊＊＊

①診療科（専門領域）　②取得認定医　③卒業大学　④卒業年度　⑤趣味　⑥地域の先生方へ一言！

マキヤマ　ユウキ
牧山　祐希

①耳鼻咽喉科
②耳鼻咽喉科専門医
③旭川医科大学
④平成15年
⑤バスケットボール･ゴルフ･スノーボード･スポーツ観戦
⑥「北海道から来ました。早く慣れてお役に立てるようがんばります。」

ハマナガ マユコ
浜永真由子

①形成外科
③東京医科歯科大学
④平成22年
⑤映画鑑賞･ショッピング･旅行
⑥「よろしくお願い致します。」

フクシマ　ヒロコ
福島　紘子

①集中治療科
③千葉大学
④平成20年
⑤ハンドベルクワイアー
⑥「どうぞよろしくお願い致します。」

ハセガワトモアキ
長谷川智明

①心臓不整脈先進治療科
②内科認定医
③弘前大学
④平成18年
⑤サッカー
⑥「よろしくお願いいたします。」

カワモト　マリノ
川元茉莉乃

①精神科（臨床精神医学全般）
②日本医師会認定産業医
③東京医科歯科大学
④平成22年
⑤ピアノ･靴磨き
⑥「皆様のお役に立てるよう一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。」

アラキ　コウタ
荒木　孝太

①脳神経外科
③山梨大学
④平成21年
⑤ダイビング･ゴルフ
⑥「よろしくお願いします。」

第4回みなと市民セミナー

当院では、横浜市民の健康増進、身近な病気について正しい知識を身につけることを目的に、CSR活動（企業の社会的責任）の一環として、市民向け公開セミナー「みなと市民セミナー」を開講しています。

第4回となるセミナーは「認知症」をテーマに2月16日(土)13:00～15:15「はまぎんホール」(西区みなとみらい)で開催します。

貴医療機関でご興味のある患者様がいらっしゃいましたらご案内ください。

申込みは：みなと赤十字病院ホームページの申込専用フォーム（http://www.yokohama.jrc.or.jp/）
の他、ＦＡＸ、お葉書でも受付けます。

お問合せは:医療連携センター☎045-628-6365(直通)

第17回4区医師会･みなと赤十字病院合同研究会報告

中区医師会 小菅孝明先生

去る10月３日、第17回４区医師会・みなと赤十字病院合同研究会を開催しました。

今年は中区医師会の先生方のご支援のもと開催する運びとなりました。

また当院医師の講演の他、中区医師会小菅医院小菅孝明先生から１演題をいただき、有意義な研究会となりました。

紹介患者さんのお問い合わせご予約は地域医療連携課

電話 045-628-6365（直通）／ＦＡＸ 045-628-6367（直通FAX）
E-mail：minato-renkei@yokohama.jrc.or.jp